花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校　平成２５年１１月６日　NO.５５

花ちゃん　「あれあれ？これは４年生の教室のようですね。」

オー君　　「何をやっているのかな。みんな上を向いているよ。」

モンタ博士「これはね、校長先生が４年生の子ども達といっしょにお勉強したようすだよ。」

花ちゃん　「え！お勉強？何をやったのかな。」

モンタ博士「校長先生が４年２組の補教に行ったそうなんだ。その時、４年２組の子ども達が、一生懸命にテストをがんばっていたので、ごほうびでカエデの種子でくるくるをやったそうなんだ。」（その後、４年１組でも実施しました。）

オー君　　「くるくる？何ですか。そのくるくる？というのは。」

モンタ博士「校長先生が、メグスリノキというカエデの仲間（なかま）の種子をわたして実験（じっけん）したそうなんだ。その種子を上にほうりなげると、くるくる回（まわ）りながら落ちるというわけさ。」

メグスリノキの種子

花ちゃん　「何でメグスリノキという種子を使うのですか。」

モンタ博士「それはいい質問だね。メグスリノキというのは、カエデの仲間の中でも、一番種子（しゅし）が大きいのさ。それで、くるくるがとてもよくわかって、おもしろいからなんだよ。」

オー君　　「モンタ博士、メグスリノキというのは、目薬（めぐすり）と何か関係（かん

けい）があるんですか。」

モンタ博士「そうだよ。メグスリノキというのは、漢方薬（かんぽうやく）のお店とかでも売っているそうなんだ。モンタ博士はためしたことがないけど、本当に目によくきくそうなんだ。」

花ちゃん　「それで、その種子を飛ばしただけなんですか。」

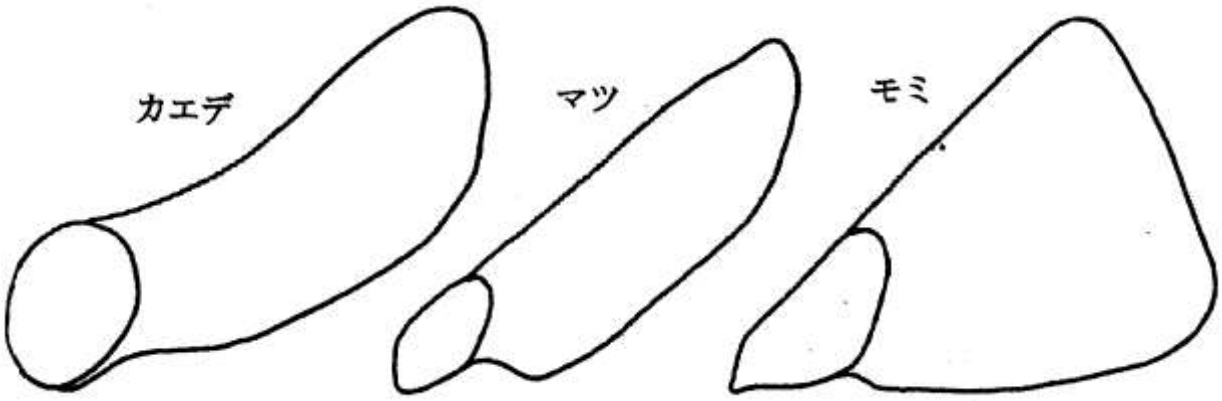
モンタ博士「それじゃ、ただおもしろいだけだろう。そこで、校長先生は、カエデ、マツ、モミなどの形を紙に書いたものを子ども達にわたして、模型（もけい）づくりをしたんだよ。」

花ちゃん　「みんなでチョキチョキして、クリップつけて飛ばしたんですね。」

モンタ博士「そうだよ。植物はふだんは動かないけど、種子の時には動くということ。また、風によってあちこちに散布（さんぷ）まきちらされること）される種子にはいろいろなものがあること。そして、さらにいろいろな形があることを知らせたかったのではないだろうかね。」

オー君　「いいな。いいな。おいらもその種子の絵が書いてあるものがほしいな。」

モンタ博士「校長先生にお願いして、下にコピーしておいたから、自分でも切り抜いてやってごらん。ただやるだけではおもしろくないから、大きさを変えたり、いろいろな紙でやってみたりすることが大切なんだ。楽しい実験になるからやってごらん。」

花ちゃん　「おもしろそうですね。オー君！いっしょにやろう。」

モンタ博士「そうだね。どうしてこの種子はくるくるまわるのか。どうしてこのような形をしているのか。自然がつくるものに意味（いみ）のないものはないんだよ。さあ！みんなで自然の不思議（ふしぎ）をたくさん見つけていこう！」